

## 《 2018年 7月 マーケット概況 》

資産クラス	指数	5月	6月	7月	当月リターン	年初来リターン
国内株式	日経平均株価	22,201.82	22,304.51	22,553.72	1.1%	-0.9%
	マザーズ指数	1,135.26	1,090.30	1,039.29	-4.7%	-15.6%
外国株式	S&P500	2,705.27	2,718.37	2,816.29	3.6%	5.3%
	MSCIEurope	1,717.22	1,702.61	1,756.22	3.1%	-2.3%
新興国株式	上海総合指数	3,095.47	2,847.42	2,876.40	1.0%	-13.0%
	ムンバイ SENSEX	35,322.38	35,423.48	37,606.58	6.2%	10.4%
海外金利	米政策金利	1.75	2.00	2.00	-	-
	米国債 10年	2.86	2.86	2.96	-	-
国内金利	政策金利	0.10	0.10	0.10	-	-
	10年物国債	0.04	0.03	0.10	-	-
外国為替 (対円)	米ドル	108.81	110.66	111.86	1.1%	-0.7%
	ユーロ	127.20	129.28	130.78	1.2%	-3.2%
コモディティー	ICE 原油(先物)	67.04	74.15	68.76	-7.3%	13.8%
	COMEX 金(先物)	1,304.70	1,254.50	1,233.60	-1.7%	-5.8%
不動産	東証 REIT 指数	1,734.13	1,764.64	1,768.31	0.2%	6.3%
ヘッジ・ファンド	HFRX 指数	1,267.13	1,264.78	1,262.90	-0.1%	-1.0%

### ◆◇ 株式・債券・為替 ◇◆

#### [ 7月の金融市場 ]

貿易摩擦の拡大懸念から大幅安で始まった7月の日本株でしたが、月半ばにかけて急反発した後は方向感に欠ける展開となりました。日経平均は再度、チャート上の重要な節である23,000円台に迫ったものの結局押し戻され、5月以降の持ち合い相場が継続しています。

NYダウは、月初の安値から持ち直して一時2月以来となる25,500ドル台をつけるなど月間では4.7%のプラスとなりました。欧州株も同様に戻り歩調でしたが、年初来大幅安となっていた中国株はようやく下げ渋ったものの、通商問題が影を落とし上値の重い動きに終始しました。

為替市場では、ドル/円で113円台まで円安が進んだ後押し返され111円台のもみ合い相場となりました。ユーロ/円についても一時131円台とやや水準を切り上げましたが、明確なトレンドの変化は見られませんでした。

米国長期金利は好景気を背景に2.8~2.9%台で安定的に推移しました。日本10年債金利は、日銀金融政策決定会合の思惑から月末にかけて0.02%から0.08%台まで上昇する新しい動きがみられました。

#### [ 今後の見通し ]

日経平均株価は、7月前半の反発相場で5月以降3度目となる23,000円の壁にはね返された後、22,000円台で比較的狭いレンジの膠着相場に陥っています。第1Q決算に見られるように堅調な企業業績が下値支えとなる一方で、米中貿易摩擦を巡る不透明感が上値を抑える圧迫要因になっています。

チャート的には日々線に中短期移動平均線が収斂する形状ですので、保ち合い放れに注意を要する局面ですが、外部環境からはしばらくこの膠着が続く可能性が高そうです。これから米国中間選挙に向けての予備選後半戦が9/12頃まで展開されます。少なくともこの間はトランプ大統領が対中通商政策で市場が好感するような譲歩を表明することはないのではと考えます。むしろ、一層攻撃的な不規則発言が発せられるリスクもありますので、上昇場面では警戒が必要でしょう。一方、現在すでに市場が認識している懸念材料では底割れの可能性も小さく、調整しても26週移動平均(22,100円台)近辺が下値ではないでしょうか。

よって、8月の日経平均は、22,000円台の狭いレンジの動きが続くと予想しています。ただ、9月以降は、中間選挙本選に向けてトランプ大統領がマーケットフレンドリーな情報発信に舵を切る可能性もあると見ており、押し目は強気で臨みたいと考えています。

## ◆◇ オルタナティブ(ヘッジファンド) ◇◆

## 【7月のヘッジファンド動向】

米調査会社ヘッジファンドリサーチ社(HFR社)が算出する7月のヘッジファンドインデックスは、マイナス1%と続落しました。7月の金融市場は、欧米の株式が安定して上昇したのに対してアジア圏の株式は貿易関税問題を背景に不安定な動きとなりました。為替についてもトランプ米大統領の関税に対する発言でドル/円が乱高下する等、方向感のない状態が続きました。世界の国や地域で株や為替等の動きに一貫性が無く、ヘッジファンドでは世界の様々な資産に投資を行うマクロ戦略が苦戦を強いられました。また、主要な収益源である WTI (原油先物) が大幅に下落した CTA 戦略も成績を伸ばすに至りませんでした。ヘッジファンドが取る WTI のポジションが2016年以來の低さとなっていることから取引に及び腰になっていることが窺えます。さらに、大型 M&A で注目されていた米クアルコムによる蘭 NXP の買収が破断したニュースが伝わる等、イベント・ドリブン戦略にとっても朗報は少なかったようです。一方、株式ロング・ショート戦略は健闘しました。前月にグロース株とバリュー株に見られた歪な動きが消え、その結果ファンドが想定する割高な銘柄が下落し、割安な銘柄が上昇する動きが戻って来たことが背景にあります。

今後、貿易関税の問題を受けて下落する中国株式市場において、ヘッジファンドの動向が注目されます。中国に拠点を置くスプリングス・チャイナ・オポチュニティーズは年初來の運用成績が17%のマイナスになっているものの、株価の急落は過小評価されている銘柄への投資チャンスとし、保有する銘柄の数を増やしました。また、モダス・アセット・マネジメントの大中華圏ファンドも運用成績を落としながらも約4億ドルの資金を集めています。既存ファンドが強気の姿勢を見せる中で、ブラック・ロックやUBSグループ、ブリッジウォーターなど名立たる運用会社がこの中国市場に参入を表明しました。新規参入組を加えて益々競争が激しくなるヘッジファンド業界。しかし、それは彼らが中国を世界で最も成長著しい投資市場であると見ている証左でもあります。

## 【ヘッジファンドインデックスと主な戦略別の運用成績(月別騰落率)】

	年初來	2018年					
		7月	6月	5月	4月	3月	2月
ヘッジファンド・インデックス	-1.00%	-0.15%	-0.19%	0.26%	0.09%	-0.98%	-2.42%
株式ロング・ショート	0.97%	0.72%	-0.67%	0.30%	-0.55%	-0.69%	-1.49%
イベント・ドリブン	-5.01%	-0.54%	-0.46%	0.36%	0.43%	-2.16%	-4.38%
レラティブ・バリュー	2.15%	-0.05%	0.39%	0.58%	0.23%	-0.33%	0.23%
マクロ	-2.90%	-1.10%	0.12%	-0.36%	0.46%	-0.79%	-4.86%
CTA	-4.42%	-0.81%	0.09%	-0.94%	0.40%	-0.23%	-7.36%

データ出所：HFR社

## 酷暑関連銘柄

7月に入ってから、連日のように日本各地を「酷暑」が襲っています。気温 35 度を超える事も珍しくなく、最高気温 38 度などと体温を超えるような危険な暑さとなっています。

先月 23 日には、東京・青梅で 40.8 度、岐阜県多治見では 40.7 度、埼玉県熊谷においては 41.1 度を観測し、過去最高記録を 5 年ぶりに更新し話題となりました。

株式市場においては、気象庁が警戒を呼び掛けた先月の 3 連休明け 17 日、暑さからの需要増加が見込まれ、「アケリアス」を販売するコカ・コーラ ボトラーズジャパンHD (2579) が 4%以上上昇、ビール・発泡酒のキリンHD (2503) は 3%以上、アイスクリームを製造する明治HD (2269) や森永乳業 (2264) も 3%近く上昇しました。

8月の予想気温も、例年より 2 度以上高い見通しとなっており、関連銘柄の好業績が期待されます。

そこで今回は、気温の上昇で株価も上昇しそうな「酷暑関連銘柄」をご紹介します。

### 【 酷暑関連銘柄 】

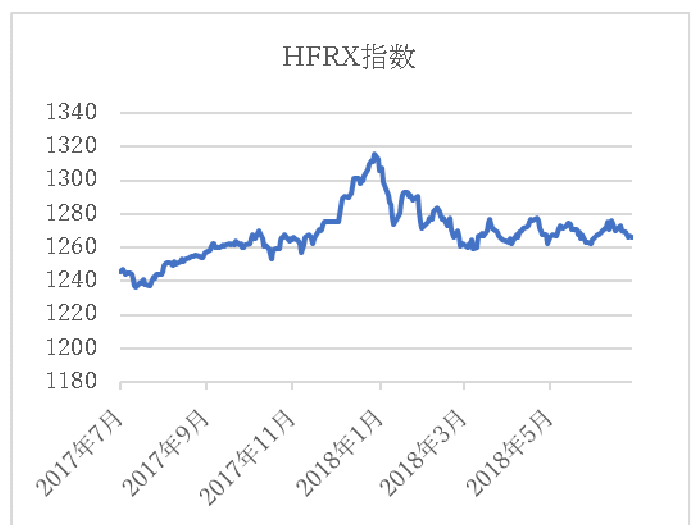
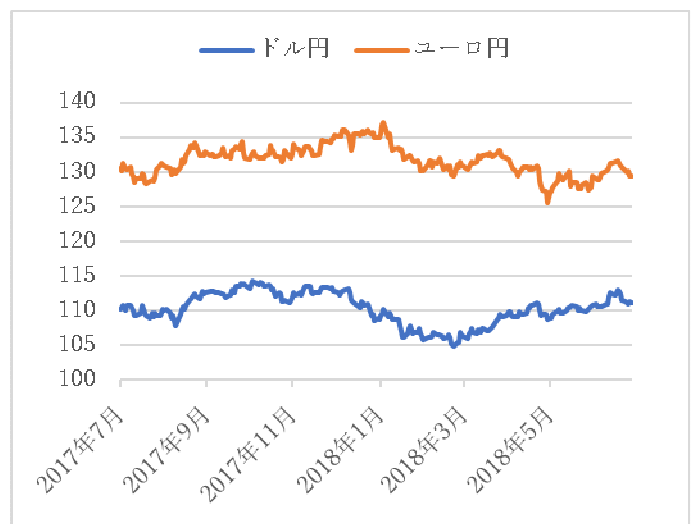
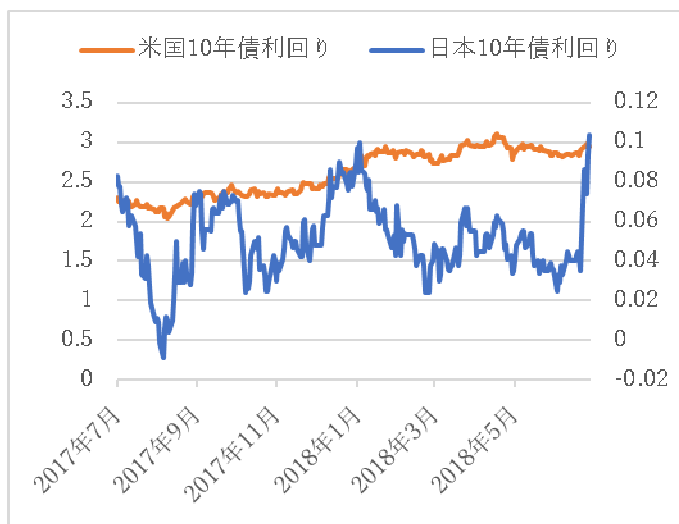
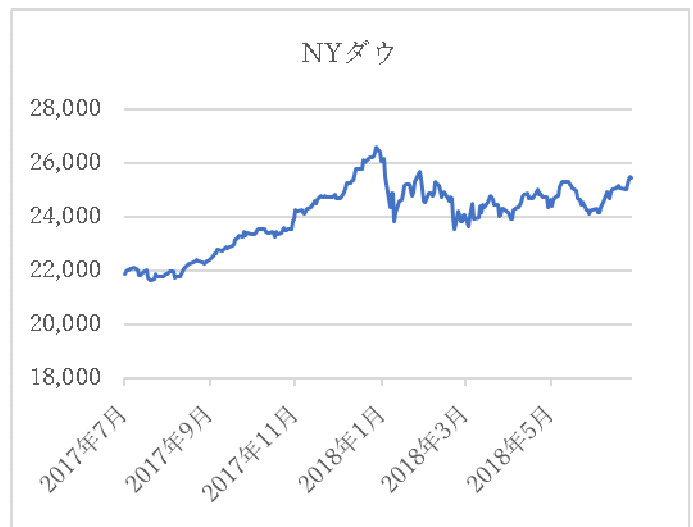
伊藤園(2593)	お茶をはじめとする飲料品の需要増加はもちろん、傘下のタリーズコーヒーの業績にも期待。
帝人(3401)	冷感衣類や冷感寝具等の需要拡大期待。配当利回り 3.3%のバリュー株。
KHネオケム(4189)	エアコンの冷凍機油原料が世界トップシェア。化粧水や日焼け止めクリーム of 原料も製造。
イオンファンタジー(4343)	酷暑で、屋内での遊戯施設の需要拡大を期待。4月には温浴事業にも参入。
小林製薬(4967)	国内外共に、冷却シートの売れ行き好調。足元の訪日外国人増加で、連続最高益見通し。増配も。
東洋製罐グループHD(5901)	飲料缶やペットボトルなど容器の需要拡大期待。リチウムイオン二次電池用外装材なども好調。
ダイキン工業(6367)	日本のみならず、米国やアジア各地でシェア拡大中につき業績は堅調推移が予想される。値嵩株。
三菱電機(6503)	エアコン「霧ヶ峰」が 50 年目の節目に省エネ大賞を受賞。株価も反転の兆しで、配当利回り 2.6%。
山善(8051)	縦型の最新扇風機やサーキュレーター、熱を発しない LED 照明の製造販売。配当利回りは 2.7%。
ヤマダ電機(9831)	家電の買い替え需要期待。リフォーム事業も堅調。配当利回り3%で、優待もあり。

※配当利回りは 2018 年 7 月 27 日現在の QUICK におけるデータベースに基づく。

上記で紹介した銘柄以外にも、「酷暑」がテーマになっている関連銘柄は多数存在すると思います。

四季報の会社プロフィールなどを参考にして、ご自身でも酷暑関連銘柄を探してみたいかでしょうか。

◆◇ 指標・為替チャート ◇◆



《執筆者》

株式・債券・為替 . . . 西川 雅博

オルタナティブ(ヘッジファンド) . . . 樋爪 功次

そうだったのか! 「知って納得、証券投資」Vol. 109 . . . 金井 良記  
酷暑関連銘柄

本資料は、情報提供のみを目的として作成したもので、いかなる有価証券等の売買の勧誘を目的としたものではありません。また、一般的あるいは特定の投資助言を行うものでもありません。本資料は、信頼できると判断した情報源から入手した情報・データ等をもとに作成しておりますが、これらの情報・データ等また本資料の内容の正確性、適時性、完全性等を保証するものではありません。情報が不完全な場合または要約されている場合もあります。本資料に掲載されたデータ・統計等のうち作成者・出所が明記されていないものは、当社により作成されたものです。本資料に掲載された見解や予測は、本資料作成時のものであり予告なしに変更されます。過去の実績は将来の成果を予測あるいは保証するものではありません。

本資料の表・グラフのデータ出所：THOMSON REUTERS 他

## K 光世証券株式会社

金融商品取引業者 近畿財務局長（金商）第14号 加入協会：日本証券業協会

本店 / 〒541-0041 大阪府大阪市中央区北浜2-1-10 TEL：06-6209-0821

東京店 / 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町9-9 TEL：03-3667-7721

